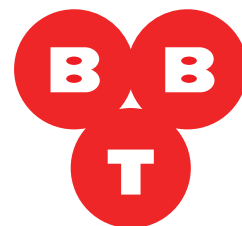


VISTA 5 M3 ユーザーレポート

富山テレビ放送株式会社 様

Vista 5 M3-32F



制作サブに VISTA 5 M3 を導入



富山テレビ放送株式会社

技術部

寺林 文彦

背景

HD化による番組制作サブ設備更新の際に、音声設備については見送ったケースが多かったのではないのでしょうか。弊社もこのケースで、1997年に導入した音声設備を電源ユニットやフェーダーなどの交換で延命させていましたが、メーカーから保守サービス終了の案内を受け、今回の音声設備更新に踏み切りました。

音声卓の選定

新音声卓の選定に当たっては、身の丈に合ったムダの無いシステムにすることを主眼とするとともに、汎用性の高い設備にすることを重点に置きました。まず、一番最初に決めたことは、フェーダー数でした。これまで使用していた卓は入力系32本+VCA8本(グループマスターとして使用)のもので、普通の番組では左端の8本は、ほぼ使う事はありませんでした。このため、実際に何本が必要になるのか、弊社で一番フェーダー数を使うであろう正月生特番で想定して、使用フェーダー数が32本で足りることを確認しました。この分、卓がコンパクトになるので、後方に置いていたエ

フェクターなどの周辺機器はサイドラックに集約する方向で進めることとしました。

音声卓は以下の理由でVista 5 M3を選定しました：最新のもので、多くの納入実績があること「最新のもの」と「多くの納入実績」というのは相反する部分ではありますが、Vista 5 M3はその名の通りシリーズ3作目で、標準仕様で多くの機能が盛り込まれた最新のもので、シリーズとして多くの納入実績があったことも導入の一因になりました。

- ・保守が容易で長期保守可能

コンソール(DESK)は車のボンネットの様に開くので、フェーダー交換作業はユーザーでも可能です。構成部品は他の機種とも同じものが多く使われているため入手し易く、保守性に優れていると言えます。また、長期的な保守サービスを見込めるため、安心して長く使用できる点も選択ポイントとなりました。

- ・オペレーションしやすいこと

パッチ作業が以前使用していた音声卓の「入力のパッチ」と「フェーダー割り付け」と違い、Vistaでは「入力のパッチ」と「フェーダー割り付け」を別に行う必要があります。しかし設定作業でフェーダー配置を変更する場合には、クロスポイントを変更することなく、ドラッグ&ドロップだけで変えられるので、こちらの方がユーザーフレンドリーと言えます

す。EQやDYNのパラメータは、ワンタッチでピストニクス上に展開できるので、エンコーダーが足りないということはありません。パラメータのコピー&ペーストは大変有用な機能で、一本のフェーダー分をデフォルト値として設定し、それを複数のフェーダーへ一度に反映させることができます。また、頻繁に使うスイッチはボタン部分が大きく操作し易く、押下した時の感触も良好です。

- ・DAWのコントロールが可能なこと

DAWのPCとVistaをLAN接続すれば、フィジカルコントローラーとして使用できます。専用のコントローラーは必要なくなったので、卓周りのスペースが有効利用できるようになりました。

その他

スタジオモニターやN-1といったRET回線系はBSS BLUを採用、マトリクスを組むことで汎用性が一段とアップし、多様な状況に対応できるようになりました。今回、ワイヤレスマイクのデジタル化も合わせて行うことで、工事完了と共に使用できるようになりました。

最後に、SONY様はじめ、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様、ヒビノ様ほか今回の更新工事に関わって頂いた皆様にお礼申し上げます。